

## SunSystems 管理会計事例

### 第5回 従業員分析

『部門分析』に続き、今度はもう少し細かく『従業員分析』をご紹介します。  
繰り返しになりますが、管理会計の大きな目的は、企業の未来に向けた分析を行い、より戦略的に企業活動に役立てようということです。

しかし、従業員分析はどちらかというと交際費の損金算入限度額の調査の為や仮払金の管理、売上の従業員別売上成績のチェックなどの従業員管理にその目的があるのが一般的です。

部門分析のように会社全体の収支を細分化して、より細かいレベルの収支分析から、企業業績の向上・改善を行う上での戦略的材料とするのとは少し異なります。

もちろん、営業マンの収支を個人別損益計算書を作成して利益分析する事も出来ますが、その営業マンが使った費用というのは、ひとつの売上を上げる為だけに支出したものばかりではありませんし、案件の段階で期末を迎えてしまえば、翌会計年度に売り上げた金額に対応する費用は前期に大部分が計上されているわけですから、そこから出てきた利益というのはあまり意味がありません。もちろん物品を販売しないコンサルタントやサービスを提供するような職種では、会計期間内の個人売上と個人の固定費を差し引いて個人利益を算出し、その人の実労働時間から実単価を計算して次年度の単価アップのための戦略分析を行うことも出来ますが、職種が限定されます。

ですから、一般的に従業員分析は、評価や財務会計に係る明細データの管理目的に利用すると考えてよいでしょう。

#### 1) 従業員コードのコーディングに関して

従業員コードには、社員コードや年金番号、社会保険番号などがよく利用されます。  
もし支店や支社なども管理するような場合、社員コードがダブるようなケースでは、その方のイニシャルをコードの先頭に付けるような設定をします。  
また、支店や支社等の名称をコードの先頭に付けてしまうと人事異動があった場合に対応できないのでお薦めできません。

#### 2) SunSystems で従業員分析をするには

第3回、第4回で述べたように、従業員分析も一般的には仕訳データを分析するために使用する『Tコード分析』という設定を利用します。

別の管理方法で、従業員の仮払いなどの管理をする場合、勘定科目コードを従業員別に持って行う方法もあります。これは、社内に最低限の小口現金しか持たない運

用を行っていて、仮払金なども全て振込みで行っているような場合に利用されます。**SunSystems**では、未払い金のデータを利用して、ファームバンキングのデータを自動作成して自動支払する機能があります。この機能を利用する場合、支払先の銀行情報を勘定科目コードに紐付けて登録する必要があります。これは管理会計というより運用上の問題です。

さて、**SunSystems**の設定方法およびT分析を利用する方法に関しては、第3回、第4回と同様ですので、そちらを参照してください。

その他、業種別の分析コードの活用方法も、別途事例をご紹介しますので、ご参照いただくと幸いです。